

記念講演 I

世界の構造変化と日本—コロナを越えて—

寺島実郎

一般財団法人日本総合研究所 会長
多摩大学 学長

目 次

1. はじめに
2. 科学ジャーナリズムのない日本
3. 世界の中で埋没する日本
4. アベノミクスは健全な資本主義か
5. 食料自給率とパラダイムシフト

1. はじめに

私は、「健全な資本主義」という言葉にこだわっている。金融・資本市場の健全な発展に当たって、証券アナリストの果たす役割は極めて重要である。コロナ禍のトンネルの真ただ中にある状況ではあるが、本日は、コロナ問題で得られた教訓とともに、中長期的な視点でみたときに、世界の中で日本が埋没していることとその背後にある構造について触れたい。

2. 科学ジャーナリズムのない日本

なぜ、科学ジャーナリズムの話から始めるのかというと、コロナ問題の最大の教訓は、日本における情報の在り方の問題が浮き彫りにされたことにあると考えているためである。情報の回路が閉ざされており、本当の事情が伝わっていない。日本は、「情報鎖国」の状況にある。証券アナリストは情報と向き合う職業であり、ぜひ情報への感度を上げてほしい。



なぜ、情報の回路が閉ざされていると考えるのか。一つの数字を紹介しよう。日本が緊急事態宣言に入る直前のタイミングで、政府の専門家会議のメンバーの一人が、「なにもしなければ日本では42万人が死に至る可能性がある」と発言した。人との接触を8割減らさなければ感染拡大が止まらないとの情報も流れた。では、2020年末時点で日本の死者はどのくらいになるだろうか。19年の日本における死因順位をみると、第1位はガンで37万人以上が亡くなっている。呼吸器系疾患は第3位で19万人。肺炎を起こして死に至る